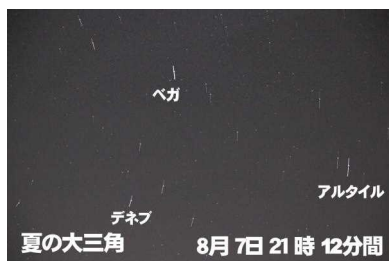




## 夏休みに出会ったあれこれ!

### 1 惑星集合

7月後半(こうはん)から、地球の仲間の火星・土星(どせい)・木星(もくせい)・金星(きんせい)が見える日がつづいています。そこで、星空(ほしぞら)の写真(しやしん)に挑戦(ちょうせん)しました。いえのベランダからうまくとれたので、明石小学校の屋上(おくじょう)で星空(ほしぞら)を見てみると、けっこうきれいな星空(ほしぞら)がとれることに感動(かんどう)しました。とった写真を合成するソフトで作った写真(しやしん)のいくつかしょうかいします。



### 家でとった火星と土星



### 上弦の月



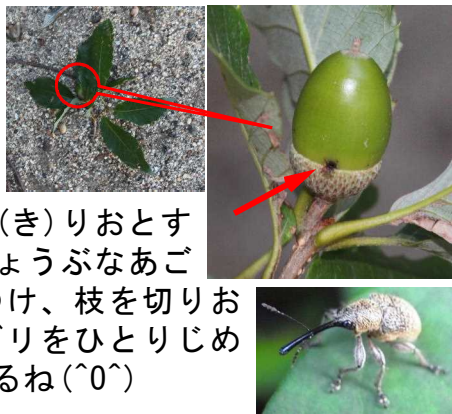
### 太陽もとってみました



\* ざんねん、7月28日の月食(げっしょく)は、くもがあって見えませんでした。

### 2 ハイロチョッキリ(オトシブミ科)

明石公園(あかしこうえん)で、右のようなドングリが枝(えだ)ごとおちていたよ。これは、ゾウムシの仲間(なかま)のハイロチョッキリのしわざでした。はいいろで枝をちよっきり切(き)りおとすことからハイロチョッキリ。長い口の先にじょうぶなあごでドングリに穴をあけて、卵(たまご)をうみつけ、枝を切りおとすそうです。幼虫(ようちゆう)はそのドングリをひとりじめして食べて大きくなります。よくかんがえているね(^0^)



○3と4は8月7日理科の研修会<sup>けんしゅうかい</sup>でいった加西市「あびき湿原」<sup>あびきしづげん</sup>で見つけました。湿原は、ひるまはルールをまもればだれでも見学(けんがく)できます。



### 3 ハッチョウトンボ(トンボ科)

1円玉とおなじぐらいの2cmほどの大きさで、日本の中でいちばん小さなトンボといわれます。5～8月ごろまで飛(と)んでいて、めだつ赤色(あかいろ)はオスで、小さな水たまりのちかくなわばりをつくるので見つけやすい。メスは麦(むぎ)わら色で草(くさ)むらなどにおいて、であうことはめずらしい。見つけたときは、たいへん小さくかわいいなと思いました。



### 4 サギソウの花(ラン科)

どうしてこの名前(なまえ)かな? 写真(しやしん)で見るとわかるように、明石公園や川でよく見かける大きな白い鳥のサギが飛ぶすがたににているのでついた名前です。7～8月ごろに湿地で3cmほどの白い花がさきます。すごくきれいな花でした。



### 5 チョウトンボ(トンボ科)



チョウトンボ

7月に伊川上流<sup>いかわじょうりゅう</sup>や池<sup>いけ</sup>でヒラヒラとチョウのように飛んでいたのを見つけた。羽(はね)が黒(くろ)っぽい色でおおわれ、虹色(にじいろ)に光(ひか)るように見え、とくにうしろの羽の幅(はば)がかなり広(ひろ)い。6～9月まで見られます。チョウのようにひらひら飛んでいるかと思(おも)えば、一瞬(いっしゆん)でべつの場所(ばしょ)へ移動(いどう)するほどはやくも飛べるようです。



ベントンボとチョウトンボ

### 6 テッポウユリとタカサゴユリ(ユリ科)

テッポウユリ

今よく見かける白いユリ、2種類(しゅるい)あって、右のテッポウユリと下のタカサゴユリです。多(おお)くのユリは花のねもとから花弁(かべん)がわかれていますが、この2つは筒状(つつじょう)になっていて先(さき)がわかれていません。タカサゴユリが花弁の外側(そとがわ)に茶色(ちやいろ)の筋(すじ)がはいっていて、テッポウユリはまっ白です。花期は7月～9月です。観賞用(かんしょうよう)に輸入(ゆにゆう)されたものが野生化(やせいか)したようです。また、シンテッポウユリもあり、タカサゴユリとテッポウユリが自然(しぜん)に交配(こうはい)されてできたしゅるいだそうです。



タカサゴユリ



タカサゴユリ